

## 教材・支援機器活用実践事例【ICT】

クイズ形式で理解・定着を図るための ICT 活用  
「詩の理解（擬音語・擬態語の学習）」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・中学部 2 年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な漢字を書ける生徒から文字をなぞる程度の生徒まで在籍し、生徒の実態差が大きい学習グループである。</li> <li>・音読について、簡単な文や語句であれば読める生徒が多く、追唱をして詩を読むことができる。</li> </ul>
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	国語
	単元(題材)名	単元名「詩を読もう」
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つるみまさおの「あめのうた」や谷川俊太郎「どきん」の詩を使って、詩のリズムを感じながら詩を読む活動に取り組んだ。</li> </ul>
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	タブレット端末   
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○詩の中にある擬音語や擬態語について、場面にあった雨音や写真などを提示し、詩の情景をイメージしやすくする。 〈工夫点〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズ形式で2～3つまでの選択肢を提示し、keynote のリンク機能を活用してタブレット端末をタッチすることで選択・回答できるようにした。</li> <li>・回答すると即時的に正解音が出たり、写真などが表示されたりするようにした。</li> <li>・回答した内容を学習プリントで振り返り、理解状況を別の媒体でも確認できるようにした。</li> </ul>
	材料・作成方法等	タブレット端末、アプリ (keynote)
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答が即座に分かるので理解しやすく、意欲的に取り組む様子が見られた。プリントで理解状況を確認することができた。</li> <li>・機器を介して友達の考えが分かり、授業での発言が増えた。それによって詩の形式や韻について理解を深めることができた。</li> </ul>